

関係各位

福岡県米・麦・大豆づくり推進協議会
(事務局：J A 福岡中央会担い手サポートセンター営農振興担当)
(公 印 省 略)

営農情報 5

麦類の中間管理技術対策

令和 6 年産麦の播種時期は降雨が少なかったため、順調に播種作業が進んだ。11 月中下旬播きでは、適度な土壌水分であったことから、出芽・苗立ちが良好であった。また、出芽後の生育も概ね平年並みと順調に進んでいる。

向こう 1 か月の季節予報（福岡管区气象台、1 2 月 2 3 日～1 月 2 2 日の天候見通し）では、気温が高く平年と同様に曇りや雨または雪の日が多くなると予想されている。

近年の安定した麦生産の継続や実需者の求める品質の確保に向けて、気象情報やほ場条件、麦の生育状況を確認しながら、下記の技術対策を確実に実施する。なお、降雨が続く場合は、肥料の流亡や雑草の増加が懸念されるため、適正施肥や適期防除に努める。

技術対策

（1）排水対策

麦の健全な生育のためには、排水対策が不可欠である。ほ場に水が溜まらないよう排水溝の溝さらえを行い、排水路を整備して地表水を排水する。ほ場が乾燥した時点で、土入れを兼ねて作溝する。

（2）土入れ・踏圧（麦踏み）

土壌が乾燥した時点で、速やかに土入れ・踏圧を実施する。

踏圧は、倒伏防止、早期茎立ち抑制のため、分けつ始期から節間伸長開始期前（踏圧の晩限：草丈 20～25cm 程度）までに 3～4 回実施する。

土入れは、倒伏防止や雑草防除の効果が高いため、本葉 3～4 枚頃から 3 月上旬までに 2～3 回実施する。

（3）雑草防除

雑草の草種や発生状況を観察し、選択性茎葉処理除草剤（ハーモニー D F など）を適期に処理する。除草剤は普通作雑草防除の手引きを参照し、最新の登録情報を確認して使用する。

（4）追肥

1 回目の追肥（分けつ肥）は、小麦・食料用大麦・裸麦では 1 月下旬に基準量を施用し、ビール大麦は 1 月下旬～2 月中旬に基準量を施用する。追肥に緩効性肥料を用いる場合も 1 月下旬に施用するが、施肥後に土入れを実施して確実に覆土を行う。

2 回目の追肥（穂肥）は、食料用大麦・裸麦では 2 月下旬、小麦では 3 月上旬に基準量を施用する。なお、葉色が低下した場合は、2 回目の追肥を早める。

以上